

春先の餌付け

越冬明けに備えて

毎年、最も数多く寄せられる錦鯉飼育の悩み事は「春先の餌付け」の相談です。錦鯉を飼い始めたころ、春の餌付けに失敗した経験を持つ人は少なくないと思います。

錦鯉飼育のセオリーは、一般に「水温が10〜12℃に下がる11月中旬を目安に餌止めて、水温が15℃程度に安定する桜の花が散るころ、鯉の泳ぎに気を付けながら、消化の良い餌を少しずつ給餌」とされていますが、現在はハウス池にしたり、池水を加温するなどして、冬季も水温を高く維持しながら飼育する人が増えています。

また、ハウス池と庭池を使い分けている人もいて、単純に「餌止めあり／なし」を断定できなくなっており、いずれのパターンに

も対応できるように知識を備えておきたいところです。

今回は「咲ひかり」でおなじみの(株)キョーリンにご協力いただき、春先の給餌について、改めておさらいしておきたいと思います。

Q 春先の錦鯉の体調は、どういう状態にあるのでしょうか？

A 冬季に絶食していた場合、春先は鯉の腸管は非常に薄くなっていて、生理的にデリケートな状態にあると言えます。この時期に、いきなり多量の給餌をしたり、あるいは腸内に餌が残っているときに水温が低下すると、薄くなった腸に非常に大きな負担がかかります。

また、消化器官をしばらく使っていないかったために、消化酵素の分泌が少なくなっています。春先はさらに、水温変化が激しいこともあいまつて、複合要因で体調を崩しやすくなっています。

Q 春の給餌を始めるとき、注意すべき点を教えてください。ただけですか？

A 温かい日があっても、気温が安定するまでは控え目に餌を与えるのが原則です。春先の気候は不安定ですが、全国的に桜の花が散ったところを餌付けを始める目安としています。注意すべき要点を要約しておきましょう。

- ・最初は昼間の暖かい時間帯に、ほんの少しだけ与えてみる。
- ・量と回数は徐々に少しずつ増やしていく。
- ・温度差が激しい日に多量の餌を与えるのは危険。
- ・気温や雨などの天候・状況を考慮する。

Q 春先に推奨の餌は？

A 『ひかり胚芽』『咲ひかり低水温用』『咲ひかりR低水温用』は晩秋から



ひかり胚芽



咲ひかり低水温用



咲ひかりR低水温用

咲ひかりR低水温用について

・Rエキス配合の免疫力の維持に配慮した高品質な低水温専用飼料

腸内で活性化するひかり菌とRエキスで腸内細菌のバランスを保ち、健康な錦鯉が本来持っている免疫力の維持をサポートします。

・低水温下での免疫力維持をサポート

「咲ひかり低水温用」の配合に、納豆菌の1種、乳酸菌の1種、および2種の酵母菌の複合代謝エキス - Rエキス - を配合。腸内で活性化するひかり菌（プロバイオティクス）とRエキス（バイオジェニックス）の相乗効果により腸内細菌のバランスを保ち、健康な錦鯉が本来持っている免疫力の維持をサポートします。

・低水温下でも優れた飼料効率

消化吸収の良い原料の配合バランスを追求し、低水温下で給餌量が少ない場合も着実に成長させることができます。同時に生きたひかり菌が錦鯉の腸内のはたらきをサポートします。

・低水温下でも水を汚さない

低水温下での消化吸収に配慮した配合によって、他の咲ひかりシリーズと比較して汚泥の発生量が少なく、ひかり菌が低水温下でもフンを分解するため、水質悪化、濾材の目詰まりを軽減します。

※ひかり胚芽など他の飼料と併用する場合、「咲ひかりR低水温用」の比率が約50%以上あれば、Rエキスの効果が期待できます。

「咲ひかりR」「Rエキスの効果」については、鱗光2016年5月号の特集および(株)キョーリンサイトに詳細がありますので、ご参照ください。

<https://www.kyorin-net.co.jp/yamasaki/found/f03.html>



Q そもそも、冬季の給餌について、止める／消化

春先まで使える餌で、なかでも『咲ひかりR低水温用』をおすすめします。
Rエキスには免疫力を維持する働きが期待できるので、春の病気が出やすい時期や品評会などで移動が多いとき、新しい錦鯉を追加するときはRタイプフードの給餌をおすすめします。



A 『冬季餌止めなしで、の良い餌を少量ずつ与える、どちらがよいのでしょうか？』
『冬季餌止めなしで、様子を見ながらごく少量与えているパターン』と『水温が約10℃を下回ったら、餌止めして、桜の花が散るころからごく少量与えていくパターン』の両方があり、お住まいの地域や池の環境に応じて、どちらでも良いと考えています。
ただ、初心者の方は、どうして

も餌を与えすぎるリスクがあるの
で、餌止めしてしまうほうが安全
かもしれません。
× × ×
今回は春の餌付けに焦点を当て
ましたが、春先の飼育で気を付け
ておきたいポイントがいくつかあ
ります。
・秋の野池揚がりの鯉や新たに購
入した鯉の消毒が不十分だった
りすると、越冬中の免疫低下と
あいまって、病気を引き起こし

やすい状態にあります。
・濾過槽は冬場でも汚れます。餌
止めしているときは、固形物
としての糞は排出されませんが、
尿としてのアンモニア態は排出
されています。冬場はバクテリ
アによる浄化を進めづらい状態
だから、給餌の開始前に濾過槽
を掃除することが推奨されてい
ます。
今年春暖冬の影響で、春のよう
な気温の日が続くこともあり、花
粉の大量飛散も始まっており、春
の訪れも例年より早いことが予想
されます。給餌は錦鯉飼育におけ
る大きな楽しみの一つです。おな
かをすかせた鯉たちがパクパク食
べると、嬉しくなって、ついつい
もう少しと餌を与えたくくなります
が、そこはぐっとガマン——水温
が完全に安定するまでは、鯉の体
調、水、食べ残しが残らないか、排泄
物、濾過槽の様子を細かく見なが
ら、本格的な飼育シーズンに向け
て準備を進めておきましょう。